

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成24年2月16日 (2012.2.16)

【公表番号】特表2010-505396(P2010-505396A)

【公表日】平成22年2月25日 (2010.2.25)

【年通号数】公開・登録公報2010-008

【出願番号】特願2009-530744(P2009-530744)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成23年12月12日 (2011.12.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

【図 1】本発明の組成物中に保存された唾液およびオラジーン (O r a g e n e) (商標) 内に保存された唾液に由来する核酸の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 2】オラジーン (O r a g e n e) (商標) 内に保存された唾液に由来する核酸の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 3】所定の pH 範囲の組成物中に保存された RNA 試料の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 4】唾液の細胞フリー画分と結合された RNA の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 5】所定の pH 範囲の唾液の細胞フリー画分と結合された RNA の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 6】所定の SDS 濃度範囲における、本発明の組成物中で保存された唾液中の RNA の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 7】本発明の組成物を用い、唾液中の RNA を 37 を対照として室温で保存した場合の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 8】本発明の組成物中での室温で保存された唾液中の RNA の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 9】本発明の組成物中での室温で保存された唾液中の RNA の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 10】本発明の組成物中で保存されかつ室温での保存後に様々な温度で加熱された RNA 試料の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 11】本発明の組成物中で保存されかつ室温での保存後に様々な温度で加熱された RNA 試料の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 12】本発明の組成物中での室温で 10 ~ 16 日間保存された RNA 試料の電気泳動

の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 1 3】R T - P C R 産物の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 1 4 A】指示温度で 1 週間（パネル A）保存された唾液由来の R N A 試料の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 1 4 B】指示温度で 8 週間（パネル B）保存された唾液由来の R N A 試料の電気泳動の結果を示す、臭化エチジウムで染色されて透光されたアガロースゲルの写真である。

【図 1 5】対象から唾液を採取するための追跡可能なステップを示す図面である。